



取締役 専務執行役員

小谷 武福

Taketomi Kotani

オンリーワンの製品づくり ～情熱が生む

当社は1927年の創業時から、他人が手がけない新しい専門分野を狙い、大量生産を必要とする汎用機器ではなく、特殊な技術を必要とする製品や特殊な用途の製品でトップレベルの会社をめざすことを方針にかかげ、今日まで発展してきました。当社の先輩たちの歴史をみると、この方針に沿った分野で一步先のオンリーワンと言える製品を次々と生んでいます。私たちの先輩はどのようにしてこのような製品を生み出したのでしょうか。私は、このような製品を生むことができたのは経営者から社員のひとり一人までが、創業時の初心を忘れずに情熱を持って日々研鑽に努めた結果であると思います。

私たちの会社は、開発設計を担当する人たちだけで新しい製品を考えるのではなく、多くの社員が自ら当事者意識を持って、互いに提案や意見をかわすことの中から製品を生んできました。これからも、私たちは世の中の変化の方向を鳥かん図的な視野から察知し、明日に向かって私たちが手がけるべきものを見つけだす努力と熱意を抱き続けることが最も重要です。そして、その方向へは旧来の考えにとらわれない新しい発想で取組むことが大切です。新しい発想の製品を具現化するには幅広い技術の研鑽が必要です。言

トップレベルの製品～

うまでも無いことですが、目指す性能の新製品を作りあげる設計力と生産技術力もトップレベルでなくてはできません。そして、その製品に向けられる利用者からの初期評価を迅速に取り入れて完成度をさらに高める動きが重要です。これらの1つでも欠けることなく全てに情熱をもった動きがオンリーワン製品を生むのです。私たちの先輩はそれを実行してきたのです。私たちはその情熱を受け継がねばなりません。

私はある先輩から「習って、覚えて、まねして、捨てる」との言葉と指導を受けました。この言葉は、まずはトップレベルの先輩の持つ技術を習得しなさい、そして技術を覚え、習った方法をまねて同等のレベルに達しなさい、そのレベルに達したら習った方法を捨てなさい、と言う意味です。この「捨てなさい」の言葉は、先輩から習得した技術で努力をするだけでなく、先輩の技術の次元を乗り越えた領域へ挑みなさい、と言っているのです。私たちの先輩も昔の先輩を乗り越えてきました。私たちも同じように先輩を乗り越える情熱を持たねばなりません。その情熱がトップレベルであれば、必ず、オンリーワンと言われる製品を生むことができるのです。